

# 寿だより

根郷公民館寿大学

2014-2月発行



・しもふさ 七福神巡り雑感

第九班 原田 涉

一昨年の正月五人の友人と七福神巡りにチャレンジを試みた。佐倉の七福神巡りは毎年健康の為に巡っている。

下総七福神は、村おこし事業の一環として観光資源の開発を行い、昭和六十一年度に誕生。拝する事によって七つの幸福が授かると言われている。「田福の神」「長寿の神」「富財の神」「音楽・知恵の神」「福徳の神」「商売の神」「仏教の守護神」ちなみに(1)真城院(弁財天) (2)成田ゆめ牧場(福祿寿) (3)常福寺(大黒天) (4)楽満寺(恵比寿) (5)乗願寺(布袋尊) (6)昌福寺(寿老人) (7)龍正院(毘沙門天) JR滑河駅からスタートし、JR滑河駅に戻って七カ所巡りの歩行は十七・五\*の道のり。

どこの寺院か思い出せないが「ぼけない五か条」「心のもち方」「極楽・地獄の岐れ路」を記した貴重な資料を任職から戴いた。

時折自身がこの項目の中で何故

位実行しているのか？自問自答している。

中でも「心のもち方」は常に心がけている。

極楽・地獄の岐れ路

「幸福への近道」

早起きする人 熟睡できる人  
感謝して真剣に努力する人  
仕事を趣味に能率を図る人  
義務も責任も進んで果たす人  
時間を守る人、礼儀正しい人  
頼もしい人、融和を図る人  
人も自分を尊敬できる人  
常に反省し素直に改める人  
何事も善意に解釈する人  
注意深い人、決断の速い人  
心身の健康を心掛ける人  
質素で金を活かして使う人  
孝心深い人、恩に報いる人  
親切で人の為によく尽くす人  
良心と優しい愛情に満ちた人  
恥を知る人、偽りのない人  
信念に徹した人、辛抱強い人  
どんな苦難も悠々耐える人

生き甲斐を求め精進する人  
夢と希望に笑顔で生きる人  
「不幸を自分で造る人」

心の暗い人、不愉快に暮らす人

絶えず不満や愚痴の多い人

やる気がなくよくサボル人

無責任な人、法規を守らぬ人

時間も「物」も無駄にする人

陰口が多く他人の和を乱す人

卑下する人、自信なく焦る人

信仰心がなく自我に強い人

神仏に無理な願いをする人

心が狭くすぐ腹を立てる人

暴飲暴食、自分を粗末にする人

お金を浪費し賭け事をする人

悪友も道楽、閑も多すぎる人

公德心なく迷惑を掛ける人

利己的気儘、自分本位な人

迷いも取越し苦労も多い人

欲の深い人、自惚れの強い人

依頼心の強い人 苦勞に負ける人

義理より権利を主張する人

貴重な一生を無為に過ごす人

「心のもち方」

一はらを立てるよりゆるす方がよい

二にくむより愛する方がよい

三不平を言うより感謝する方がよい

四ぐちを言うより喜ぶ方がよい

五りきむよりまかせの方がよい

六いばつていっているより謙虚な方がよい

七うそをつくより正直な方がよい

八けんかをするより仲よくする方がよい

「ボケない五か条」

一仲間がいて気持ちが良い人

二人の世話をよくし感謝のできる人

三ものをよく読みよく書く人

四よく笑い感動を忘れない人

五趣味の楽しみをもち旅の好きな人

(平成二十五年五月記)



ふるさと(その二)

福久 伍市

昭和二十三年春、訳あって富士山の見える沼部をあとに北海道南部の漁村で漁師をしている叔父の家に連れて行かれました。小学校五年生、

後で分かったのですが、家の手伝い

をしていければ学校へ行かせてやるからと言う事でした。

そんな訳で朝早く起こされ裏山の

馬小屋に行き水を汲み、餌を与えて

から山を下り浜に出て浜の草取り、

終わると家上がり、いも(メーク

イン)の皮むきをして、やっと朝食

を食べてから一里ある小学校へ。毎

日朝五時に起きて仕事をして、七時

に家を出て八時に学校に着く、当時

傘は貴重品、雨の日は一クラス四十

人中傘のある子は五〜六人なので学

校は休みになります。帰りに雨が降

ればずぶ濡れでした。給食がないの

で弁当持参ですが、昭和二十三年四

年の食糧難時代、白いご飯などあり

ません、米半分、豆半分の混ぜご飯、

おかずと言えば、塩イカ、数の子、

イクラなどをご飯の上にふりかける、

今で言うイクラ丼、友達に見られる

のが恥ずかしいので、弁当箱のふた

で隠して食べていました。

海と山に囲まれた小さな漁村、楽

しみと言えば海に入って、うにやが

ぜ(馬糞うに)なまこなどを獲って

その場で食べるのが楽しみでした。

腰あたりに浸った所でいくらでもい

るので夏は毎日海に入っていました。

今は勝手に海に入って、うにやな

まこなど獲る事は出来ませんが、当

時は自由に獲る事出来たので良い思

い出となりました。又秋には山葡萄

を採りに皆で山奥まで出かけて、か

ご一杯にして来たものでした。

この頃の足と言えば、乗合自動車

だけ、午前と午後の一往復しかあり

ません。それも木炭自動車です、雪

で動かなくなると乗客が皆で押さな

くてはなりません。ガソリン

車になったのは昭和二十五年頃と記

憶しています。ある時学校の帰りに

腰まで雪が積もり一里の道をやっと

の思いで帰った事もありました。

ある日の夕食はカレーライス、肉

は鯨だったかうさぎだったか忘れた

けれど大変な御馳走でした。とにかく

毎日、学校から帰ってからは、ま

き割り、馬の食物の草刈り、夜は

か熨斗をさせられ、生活は楽しくは

なかつたが、自然が一杯ある中で四年間は懐かしく、今でも忘れぬ事はありません、これが第二の「ふるさと」です。(つづく)



年寄りの嘆き

十班 栗尾 義治

昨年七月半ばの暑い盛りの方、家の郵便受けを開けると市役所よりの介護保険及び後期高齢者医療保険の今後一年間の通知が届いていた。これらの額を見ると私が現在貰っている年金額よりして高く感じられるが然し課税計算より見ても致し方ない額だと思ひ諦めざるを得なかつた。高齢者人口は増え、政府の医療、介護に廻す社会保障費も増加の一途を辿つて居りこれらを含めた予算規模の増加のため、来年四月より消費税引き上げを行い、8%の消費税を価額に上乘されるようになる。我々年金生活者にとつての年金は据え置

きで、食費を含めた消費者物価の上昇は大変な生活費の負担となり生活が一層苦しくならないかなと心配している。年金生活者が老後を安心して生活が出来るようお願いしたいものです。



歴博ひとくちガイド

縄文土器について

六班 座間 功

第一展示室に入つてすぐ左側に縄文土器のコーナーがあります。このコーナーに並んでいる土器は、縄文時代中期と言われる今から約五千五百年前の時代のものです。縄文土器は粘土で形作つて焼き上げたもので煮炊き用の深鉢が基本でした。煮炊きが始まると、食べられる物の種類が増え、殺菌効果も増し、生だど日持ちしない材料を長持ちさせたり、柔らかくもなりましたから、老人や子供、病人も食べやすくなり

ました。それは病気を減らし寿命を伸ばし、人口を増加させたと言われている。正面から見て右側の北海道・東北

地方の土器は円筒形で厚く全体を縄文と呼ばれる縄目が付いています。真ん中の中部・北陸地方の土器は火炎土器と呼ばれる火が燃え盛つた様な土器が多く、左側の西日本地方の土器はやや薄手で文様が少なく底が丸みを帯びています。

この様に形や文様に差があるのは、縄文時代より古い旧石器時代の人々が獣を追いかけて移動して暮らしていました。縄文時代になると海や森や川の食べ物を求めて、一か所に落ち着いて暮らす生活が始まりました。自然に移動の範囲も狭まり、地域ごとに文化の特色が出てきました。地域による土器の形や文様の違いは、生活の地域差を反映したものと云われています。

特殊な土器としましては No. 28、30、35……人の顔やヘビの文様がついたもので食べ物を与えて

くれる森や川の精霊に感謝するため、また、中の大事な食べ物やネズミなどから食べられないよう、おまじないとしたのでしょうか。

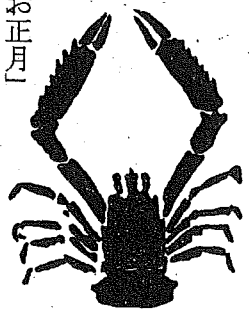
No. 9……高さ10センチほどの小さな鉢で神様に供え物する為か、皆で食事をする時の盛り付け皿でしょうか。 No. 21……高さ50センチ以上の大きな深鉢で水瓶として使われ、また、再利用として死んだ人のお棺としてお墓に埋められたそうです。

No. 33……口の部分にあなとつばがつき、胴に模様らしきもの、そして把手つきで、皮を張つて太鼓として使われた、また果実酒を醸造する容器だったなどと言われています。 No. 40、42、43……火炎土器と言われ炎のような装飾がついており、実用ではなく、祭りや儀式で使われたと言われています。

その他色々な物がありますが、この時代は、まだ水田稲作が朝鮮半島から伝えられていないので、縄目はカラムシの皮でつくつた縄によつて

付けられていたそうです。そして縄文土器は爪痕などからして女性が作つていたと言われています。

日本列島全体が一望出来るのは、歴博のこのコーナーだけだそうですので、ここで遙か、大昔の人々が厳しい自然環境の中で力強く生きていた状況を思い描いてみるのも如何でしょうか。(つづく)



雑感「お正月」

十班 吉野 強三郎

二月です、月日の経つのは本当に早いですね、我が家は仏教徒です。クリスマスなど関係なかつた子供の頃、正月が来るのを指折り数えておりました。楽しみはお年玉、「馳走です。しかしもうこの歳になると正月は冥土の旅の一里塚目出度くもあり、目出度くもなし」の心境です。日頃食べられない「馳走、餅は昨今、何時でも手に入りますので季節

感はなくなりましたが、その頃は餅を食べるのは年数回でした。

お雑煮は角もち、丸もち、焼きもち、焼かないもち、醤油仕立て、みそ仕立て、また具は海鮮などの豪華なものから野菜などシンプルなものまで、そのバリエーションは全国多岐です。沖縄の人と北海道の人が家庭を持つ時代、お雑煮も本場に多様化しています。我が家の雑煮は焼いた角もち、醤油仕立て、具はほうれん草、かまぼこ、鶏肉(私は鳥肌の見える鶏肉は得手では有りませんが)です。

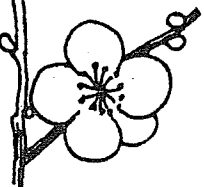
「馳走は最近の様な豪華な「おせち」では有りませんが「おせち」です。勿論母の手作りです。煮しめ、黒豆、田作り、きんとん、紅白なます、かまぼこ、伊達巻、数の子等です。年に一度だから楽しみなのです。ひがみでは有りませんがキャビア・フォアグラ・トリュフも毎日では飽きて感激もなくなりません。遊びの定番は独楽回し、凧揚げ、羽根つき、双六、高尚な遊びは百人

一首です。最近の子供達が独楽、凧揚げ等で遊ぶ姿を目にする事は少なくなりました。IT時代を反映して「ゲーム」に変わってしまった。

正月は歳神様を迎えてその年の豊作を祈る神祭りで家内安全を願う行事です。初詣は鎮守様に一年の感謝を捧げたり、新年の無事と平安を祈願したりする儀礼です、今年も健康で楽しく過ごしたいものです。

俳句「風光る」

六班 佐藤 静江



- ・初空に一番機らし点滅す
- ・竹瀑せてみな後ずさるとんどかな
- ・渾身のラストスパート風光る
- ・吹奏楽響く学舎花の雲
- ・グランドに勝者の校歌春の虹
- ・小流れにサイダー冷す宿場かな
- ・父に似し羅漢の笑顔夏木立
- ・大寺の嶋かがやけり大西日
- ・秋霖や昼を灯してミシン踏む
- ・鯖雲のやがて混沌夕暮るる

サークル紹介

◎あさいちばん塾参加者募集

一班 内野 牧夫

活動の二本柱

- ・体を鍛えよう……いきいき体操会
- ・心を育てよう……あいさつ推進会
- ・頭を使おう……楽しい学校カラダの三点セット、体・心・頭を使っていつまでも、若く、いきいきと生活しましょう。

元気の源は朝いちばんの活動から。 ※連絡先 内野 〇四八五・八〇〇〇

◎ねこう歩こう会

・月一回(但し八月を除く)原則として午前中地域の史跡を訪ねながら歩きます。この会は寿大生部活と健康ウォーク講座の有志を元に統合して後、再度募集の上、2011年度から活動して、現在に至っています。

2014年度以降は最大三十五人を限度として「レクリエーション傷害保険」をかけ活動を続けます。今回の補充募集は先着七名迄です

地名【佐倉】の由来

紙上佐倉学・NO11

・下総印波浦周辺に住着していた一族が生産し、織りなした麻布を船積み時まで納めておいた倉が、港＝神津（神々の国へ荷を積み出す津の意～公津）＝に近い一帯に建てられていました。麻の倉が立ち並ぶところから、土地の人達はいつかこの辺りを「アサクラ（さくら）の地」と呼ぶようになりました。

けれど地名は文字がなかった昔からの呼び名に、あとで漢字を当てはめたもので「佐倉」の地名の起りにも色々な説があります。

・例えば、このころこの「アサクラ（麻倉）」は神々の国に送る荷を入れておく場所だから、いつも清潔にされていました。「清潔な（サ）倉」のある場所だから「さくら」と呼ばれるようになった、という説。・下総の代表的な倉→総倉→さくら、という説などです。

いずれにしても、そのころ「さくら」と呼ばれた地域は、酒々井を中心とする地域で現在「本佐倉」という地名になっています。現在の佐倉はその昔印波浦の南台地の山林で、後にこの山を囲むように人々が住つき「鎌木村」が生まれました。

江戸時代に入ってこの台地の西部鹿島台にお城が造られ城下町が出来たとき、この台地一帯を正式に「佐倉」と呼ぶようになりました。

資料：ねごう歩こう会  
・印旛郡誌・佐倉市史による

【藩制時代】

		佐倉藩の領地					
		稲葉正和		堀田正睦			
		村数		村数			
		支配高(石)		支配高(石)			
藩主	郡名	村数	支配高(石)	村数	支配高(石)		
千葉 佐倉	下総	印旛	167	49,695.4	148	44,566.4	
		千葉	28	9,716.9	31	10,493.2	
		埴生	55	23,257.6	26	8,878.7	
		香取	10	3,724.9			
		海上			3	2,056.6	
		匝瑺			3	1,312.8	
		小計	280	86,394.8	211	67,307.6	
		下野	塩谷			10	2,330.2
		都賀			17	5,169.7	
		小計			27	7,499.9	
その他 關東	相模	高座			5	1,996.7	
		大住			10	2,733.6	
		愛甲			2	406.0	
		小計			17	5,136.2	
		筑波			4	1,096.5	
常陸	真壁	小計			7	3,576.8	
		埼玉			9	3,378.2	
		小計			16	5,518.9	
新潟	越後	三島	83	22,000.0			
		香江	2	1,160.2			
大塚	河内	添川	12	8,839.8			
		小計	14	10,000.0			
山形	出羽	村山			43	40,414.3	
		新田改出				696.1	22,832.0
奥高	会	小計	357	119,090.9		132,832.0	
		表高		102,000.0		110,000.0	

・佐倉藩一印旛郡一印旛郡(佐倉市)の流れから 現在「千葉県印旛文庫会」が佐倉市にある  
【資料：佐倉学歴史講座から】



— 寿・コラム —

・人は皆「己」を中心に生きています。なので自分に合わない事、自分の考えと相反する人が回りにいる時避けようとするか、我慢が限界に達した時切れて爆発することがある。高齢者よりも若者に多く、事件に発展してしまつてもある。認めたくはないが時として高齢者が絡む事件も：・私自身の事をいう。子供の頃は親の言うこと、学校の先生が言うことが一番で、逆らうことはほとんどなかったし、それが当然であった。

・申込み … 根郷公民館  
募集期間：二月十四日(金) から三月二十八日(金)迄、住所、氏名、性別、年齢、電話番号を明記(メモ用紙可)年会費は入会後に徴収予定(300~500円程度)  
問合せ：斎藤 〇四八四・〇〇九七

・過去、寿だよりの連載で自分史として書けなかったことが山のようにある。人それぞれ楽しい思い出のほか、悲しく寂しく嫌なこと、失敗談がある筈です。読者の中にもし「私にはない」と言える人がいるなら反論して頂きたい。

・東京マラソンのボランティアリーダーを繰り返して経験している。大会当日に至るまで東京往復を繰り返して、まさにサラリーマン現役時代の管理職研修並のミーティングを受けた。  
・そこには大会本部の絶対に事故が起こってはならない、起こったとしても死人をだしてはならない、という入念な計画が前回の大会が終わった翌日から始まっている。  
・昨年七月、リーダー登録している認定リーダーに対し、七回目を迎える大会の参加要項と本番迄のスケジュール表が送られてきた。  
・当日のランナー、都心を集まった熱狂的な観衆、そして走る仲間を応援する・家族やグループ。リーダーとして分けられ、ほとんど当日だけの仲間としてのボランティアを束ねる。防寒と雨天時の対策等に気を配り、使い終わって後片づけゴミ拾い。  
・そのボランティアに対しては本部は活動マニュアルを用意して、リーダーが指示しやすいように準備してくれた。  
自分も市民ランナーの経験者だから言えるこの達成感「ありがたう」感謝の気持ちが返ってくるから生まれるのである。

・「己」のみでなく、他人がいるから出来るこの世界。「市民の黒子」を有言実行続けている。リーダーも世代交代の時期が来ていて、引き継ぎのタイミングを図っている。  
・東京で開催されることが決まった二度目の五輪、未来を担う若人達を育てよう「若き日に汝の希望を星に つなげ」と…  
・過日の新聞コラム「天声人語」に竹下登元首相語録「汗は自分でかきましよう、手柄は人にあげましよう」が載っていた。私はこの言葉が好きである。実行したい。(斎藤)

— あとがき —

・文章として表わし切れない程の事件や、台風による被害が次々に起きている中で物事は新年度に移行する。  
・そんな中、私たち寿大学生は数々の知識を身に付けて共に楽しんだ。日時や曜日を代えて特別活動で食事会で親睦を深め、又「古きを訪ね、新しきを知る」ことを実践した班もあります。  
・事情があり寿大学から離れる人も新たに加わる人もいる中で、寿だよりを愛読して原稿を書き、そして編集の一員に加わって頂くようお願いいたします。  
・休載していた「紙上佐倉学」を今号は復活しました。(編集委員ST)

